

講義名	基礎心理学			授業形態	
担当教員	福田 哲也	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

心理学は、人の心の働きや心に関わる現象を科学的に検討する学問である。そして心理学の領域は非常に多岐にわたる。この授業では、心理学の様々な領域の中でも生理心理学、知覚心理学、認知心理学、学習心理学について概観する。それらを通して、心理学に関する基礎知識や考え、人の心の特徴を理解する事を目的とする。

本講義の名称は基礎心理学であるが、「基礎」という言葉が指す内容は「心理学の初級内容」というものではなく、「人の心の基礎的なメカニズムに関する領域」というものである。その中でも本講義では、人の心の生物学的基盤と考えられる脳の構造やその機能、外界から人が情報を取り入れる仕組み（眼の構造や耳の構造など）、取り入れた情報を処理する際のメカニズムなどを概観する（詳細は授業計画を確認すること）。

到達目標

- 脳と心の関係について説明できる。
- 人の情報処理過程について説明できる。
- 学習による行動変容について説明できる。

提出課題

各授業回では、リアクションペーパーの提出を求める。記載内容は、授業に対するコメントや質問等である。なおリアクションペーパーの提出は成績評価とは独立したものである。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに記載された質問、当該授業に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しては、次回授業時に受講生全体に対して返答する。

評価の基準

- 授業内確認テストにより総合的に評価する。
 - 授業内確認テストは中間テストと最終テストの2回実施する。
- 注意点
- (a) 本授業の成績評価は上記のみに基づく。特定個人への追加課題や再テストなど、受講生の公平性を欠くような対応は断じて行わない。
- (b) 成績評価の対象者は、授業の欠席回数が総授業回数の3分の1未満の受講生のみである（学期第16条-2に準ずる）。授業全体で出席回数が一定に満たない場合（全15回の授業において出席が11回未満の場合）、確認テストの得点に関わらず、「放棄」となる。
- (c) 上記(b)の通り、出席が成績評価の前提となるため、出席に関する不正行為は成績評価に関する不正行為（カンニング・剽窃等）と同義とみなし、出席に関する不正行為を行った受講生および関与した受講生は不正が確認された時点で本授業の成績評価を不可とする。

履修にあたっての注意・助言他

- 必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。
- 心理学という学問をより理解する上では、心理学概論の受講を推奨する。
- 認定心理士の資格取得を希望する場合は、単位取得が必要な科目である。
- 公的な大会や行事、思引きなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席事由に正当性が認められない場合などは除く）。
- 本授業では、初学者がイメージしやすい心理学の内容（対人関係や社会的行動、カウンセリングなど）はほぼ扱わない。それらに関する講義を望む場合は、人間社会学専門科目の社会心理学や心理学概論の履修を推奨する。
- 新型コロナウイルスの感染状況によっては、シラバスが変更される可能性がある。大学および担当者からの連絡を必ず確認すること。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.心理学 新版。	黒藤 隆・森 敬昭・遠藤 由美・玉瀬 耕治	有斐閣	4620	9784641053861
.心理学・入門：心理学はこんなに面白い 改訂版。	サトウ タツヤ・源達 芳之	有斐閣	2090	9784641221383
.はじめて出会う心理学（第3版）.	長谷川 寿一・東條 正城・大島 尚・丹野 義彦・廣中 真行	有斐閣	2200	9784641221451

その他

各回で資料を配布する。

授業計画

- オリエンテーション：心理学の歴史
- 心と脳：脳の構造
- 心と脳：脳の情報の仕組み
- 感覚と知覚：感覚の仕組み
- 感覚と知覚：注意・さまざまな知覚
- 記憶：記憶の過程、短期記憶・長期記憶
- 記憶：学習・日常生活における記憶
- 授業前半の振り返り
- 学習：学習の基本形
- 学習：様々な学習
- 言語：言語の諸相
- 言語：言語の獲得
- 思考：問題解決と推論
- 思考：意思決定と推論
- 授業後半の振り返り

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 各授業回で配布された資料を確認し、用語の意味や理論を自ら説明できるようにしておくこと（各回につき60分）
- 授業内で紹介された心理学に関する概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（各回につき90分）
- 参考文献をはじめとした授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から自ら見つけだし、熟読すること（各回につき90分）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養一般科目のカリキュラムポリシー
 教養一般科目は、各学部学科の専門分野とは領域の異なる多様な科目を配置することで、広く、ときに深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うための科目
 本授業の目標 - に到達することは、人が生活する上での様々な精神活動において身体どのような部位が関わっているのか、また情報処理や行動がどのように生じるのかを理解することにつながる。これらを理解することは、自身が生きていくうえで、また他者と関わる中で発揮される判断力や応用力の土台となる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

- 授業ではLMS（学習支援システム）であるCanvas-Xsを用いるため、ウェブにアクセスできる端末が必要となる。
- 復習用に受講生全員に動画（授業時における授業スライドと教員の音声や録音・録音した動画）と授業資料を配布・配信する可能性がある。配信する場合、配信プラットフォームとしてはCanvas-XsおよびMicrosoft Streamを用いる予定である（配布・配信は原則として授業翌日中を予定している）。